

ハンカチを持ち歩かない淑女

生野来実

規則正しいリズムでは会えない人

私が夜中のトイレに行けば 洗面所でコンタクトをつけ、髭を剃っている

私が夜更かししようとする特番のCMを眺めれば スーツを脱いで母の料理を食べている

父

かろうじて存在を忘れられずにいたのは

皮脂の臭いと煙草のヤニが染みた部屋に落ちている大量の毛髪と

気の抜けたエアーマットの凹み、

ゴミのように散らばっている物たちのおかげだ

リビングの机、母と寝ている布団、子ども部屋の引き出し、小学校のロッカー、

公園の遊具の影、スーパーのカート置き場にもない

扉を開けた父の部屋にしかない物たちに囲まれる日曜日

黄色い壁に沿って積まれた コナンくんが描かれているマガジンの表紙

ヤスリのような紙に指の水分を舐められながら捲る

文字で埋められた吹き出しはQRコードのようで、漢字ばかり

変顔かと思えば殺人現場

ジェンガが崩れる音に首を振り、引き抜いた一冊を頂上へ返した

ウォークインクローゼットにかけられているネクタイたちに問う

ピンク色でハート柄のネクタイはないのか

父は青色か黒色のストライプ模様が好きなのか

首に巻くのは危ないので 布が落ちないように先だけを摘むと  
帽子についた交通安全バッチに似ているような

萎んだ風船に似ているような

しばらく触っていたい気がした

勝手に落ちかけていたスーツは 両手に広げても余るほどの袖先が垂れてい  
て

爪先立ちで床の砂埃に触れないように スーツを堂々とした姿勢に戻した

ポケットは三つだけ空気を含んでいた

財布と携帯、煙草とライターが入っていたのかもしれない

隠しポケットはいくつあったか

もう思い出せないが

大学の入学式に着たスーツは就職中でも使えるらしい

私は店員に嘘をつかれている

ポケットが少ないし、胸も布の余裕がなくて苦しい、靴底に傾斜があるせい  
で

二センチも小さなサイズでないと脱げてしまう

これでどう仕事するのだろう

当店にネクタイの取り扱いはありませんとでも言うように

フリルつきのブラウスを紹介された

書類を読む時は猫背になればいいのだろうか

私は買ってもらはずだったスカートの試着をやめてパンツを選んだ

気をつけの姿勢でも鳩の胸のようにバランスの悪い立ち姿の写真

幸いにも踵の血に塗れた靴は写らなかった

もしスカートを選んでいたら式場までの道中に

爪先の痛みに膝を曲げることさえできなかっただろう

式場に並ぶ 二十センチも背の高い人に合わせてつくられたパイプ椅子

それしかなく 私は大人しく座っているフリをした

足裏が床に届かず 壇上を影に覆い隠され 座れば居ないもののようにされる

私

隣人は知らないだろう

起立の合図に揃えるために 私は空気椅子で閉式を待っていた

満開の桜を見上げることもせず

小高いコンクリ塀に肩を預け、鼻筋の脂汗を人差し指ですくうと

こめかみを生垣の小さな葉につつかれ、撫でられ、招かれるまま

私は野ざらしの茶色いベンチに沈んでいった

息苦しいジャケットの、腕より長い袖を枕にして

砂利に真新しいパンプスの底をすべらせ

ジャングルジムの牢獄に母趾球の腫れを見せつけられ

踵の表皮が 赤黒く、湿る中敷へ 生ハムの薄さにおろされた

浜辺の桜貝を集めるように 風に散る花卉たちを目で追いかけてゆく

あれは嘘

卒業後の私はこの拘束着を毎日着ているか

嘘でなければ 私はいつまで他人事のフリを続けるのか